

# 議会運営委員会行政視察報告書

## 1 日程

平成29年9月6日（水）～ 7日（木）

## 2 視察先及び視察項目

(1) 株式会社 アイセック・ジャパン（沖縄県うるま市）

リアルタイム文字通訳サービス（e-ミミ）について

(2) 沖縄県議会

沖縄県議会の議会改革の取り組みについて

## 3 視察委員

- |        |         |               |
|--------|---------|---------------|
| ○ 委員長  | 伊 藤 和 弘 | 自由民主党大田区民連合   |
| ○ 副委員長 | 田 島 和 雄 | 大田区議会公明党      |
| ○ 委 員  | 鈴 木 隆 之 | 自由民主党大田区民連合   |
|        | 伊佐治 剛   | 自由民主党大田区民連合   |
|        | 渡 司 幸   | 自由民主党大田区民連合   |
|        | 勝 亦 聡   | 大田区議会公明党      |
|        | 田 村 英 樹 | 大田区議会公明党      |
|        | 大 竹 辰 治 | 日本共産党大田区議団    |
|        | 清 水 菊 美 | 日本共産党大田区議団    |
|        | 岡 高 志   | たちあがれ・維新・無印の会 |

## 4 視察項目の概要・所感

**【所感】は、項目ごとに各会派としての所感を記載。**

(1) 株式会社アイセック・ジャパン（沖縄県うるま市）

### ◆視察項目

リアルタイム文字通訳サービス（e-ミミ）について

### 【概要】

e-ミミとは、聴覚に問題を抱える方々へ、文字情報による通訳を届けるサービスのことである。パソコンやスマートフォン・タブレット端末（iPadなど）

を介して、いままでサポートが難しかったシーンでの情報保障までも手軽に実現できることが特徴である。

株式会社アイセック・ジャパンの実績としては、佐賀県武雄市議会が平成 25 年 6 月 3 日に全国に先駆けて、市議会です同時音声字幕配信を実施した。また、福井県議会では聴覚障害者が本会議の代表質問の発言内容を確認できるように、平成 29 年 6 月の定例議会で、代表質問の発言内容を文字情報にしてインターネット上でライブ配信を行った。



1. 会場から e-ミミセンターへ電話をかける。
2. スマートフォンを通して会場内の音声が入 e-ミミセンターへ届けられる。聞こえてきた音声を文字通訳者が文字に変換し、2 人で打った文字を専用のソフトを使って一つの文にする。
3. インターネットを使って、会場内のご利用者がもっているスマートフォンやタブレット端末に字幕として表示される。

(アイセック・ジャパンホームページ等から引用)

### 【所感】

#### (自由民主党大田区民連合)

この会社は沖縄県におけるワーク・ライフ・バランス企業の認定や、同県人材育成企業認証制度認定などを受けているベンチャー企業であります。会議等の音声を、電話回線を通じセンターへ送り、スタッフが 2 人一組 4 名で、句読点で切る短い文章を、連携しながら打ち込んでいくという作業を実際に再現してもらいました。

人の手によるパソコンでの打ち込みは、一見するとアナログ的な手法に見えるかもしれませんが、機械による音声認識が開発途上の現在においては、速度や正確性において有効なサービスであると感じました。リアルタイムでおおよその文章が瞬時に変換され、3～4時間で精度を高めた議事録になり、約1週間後には完全な議事録として完成される工程になっています。

本議会でもこのサービスによって、議会事務局の職員の負担を減らすのと同時に、人件費削減効果も期待できるものと考え、本会議への段階的な導入を検討していきたいと考えております。

#### (大田区議会公明党)

大田区議会では、常任委員会で(株)アイセック・ジャパンのリアルタイム文字通訳システムを利用しています。そのシステムは、本議会と同社を電話回線をつなぎ、常任委員会でのやり取り音声を、2人ペアとなった同社オペレーターがリアルタイムでパソコン入力をしています。2人のオペレーターは、議員の音声を10分間位入力したのち、次のペアと交代、最大6人で対応しています。

同社が対応している他の議会は、佐賀県武雄市議会、福井県議会、沖縄県南城市議会、沖縄県議会、議会ごとにその使用場面等は違っております。例えば、福井県議会では本会議代表質問、沖縄県議会では予算・決算特別委員会です。現在、本議会では常任委員会でe-ミミの試行を実施しています。今後も、どのような場面で運用することが本議会でも適正なのか、議論を進めていきたいと考えております。

#### (日本共産党大田区議団)

大田区とは遥かに離れた沖縄県うるま市で大田区議会の議事録をリアルタイムで作成しているシステム「リアルタイム文字通訳サービス(e-ミミ)」について、アイセック・ジャパンの事務所を視察した。社長である一瀬氏から会社設立の経過や経営方針等と、地域の雇用推進失業対策にとって役割、聴覚障害者等への社会貢献にも力を入れていることを伺った。

また、オペレーターの方々が議会の音声を聴きながら2人一組で行っている実際の仕事の状況をみた。議会では大田区議会以外でも、沖縄県、武雄市議会等の同時音声字幕配信をしている。議員は早口が多く、また方言や行政用語など困難な点が多く、オペレーターの研修は2～3か月かかるとのこと。また議会は各自治体が同時期に集中するために人手の配置が大変とのことであった。常に議会の報告を正確に伝えることの重要性を再認識した。

#### (たちあがれ・維新・無印の会)

同社のスタッフ構成は沖縄県うるま市に17人。福井に7人。名護拠点に学生バイトが9人。沖縄は台風が強いので社員が数日出勤できないこともある。そうし

たこともあって、社長の出身地でもある福井支社も設置。リアルタイム文字通訳は2人1組、10分交代で入力。議会のように3時間くらいになると、2組の4人ではなく、6人は必要なので、同時開催の会議は3件が限界。スタッフは、3か月くらい育成しないと戦力にならないそうです。

率直なところ、大田区の委員会の速記には十分でないと感じました。マンパワーが足りないし、マンパワーを確保しようとするならば、コストがかさむのみです。人による文字通訳も精度は完璧ではなく、議会事務局職員の手による補正が不可欠です。であるならば、学習機能もある音声認識ソフトを利用して、議会事務局職員とともにその精度を高めていく方が、数年のスパンでとらえれば、コストや精度の点で利があると確信します。



## (2) 沖縄県

### ◆視察項目

沖縄県議会の議会改革の取り組みについて

#### 【概要】

沖縄県議会では、沖縄県議会基本条例第22条第2項に基づき、継続的な議会改革を目的として平成24年に議会改革推進会議を設置した。この会議において、改革事項の検討や議会制度の調査研究を行っており、様々な議会改革の取り組みに着手している。

開かれた議会を目指した取り組みについては、ホームページの充実を掲げている。委員会記録の公表の他、平成25年9月定例会から委員会審査のインターネット中継を開始しており、議会ホームページにおいて各委員会の審査状況を配信している。インターネット中継以外にも、議案等に対する全議員の賛否を議会ホームページにおいて公表し、情報公開の拡充を行っている。

その他、市町村自治体との連携強化にも取り組んでいる。平成28年2月15日に「沖縄県議会議員及び市町村議会議員交流会」を実施した。この交流会では、講師を迎えた講演会や県議会議員と市町村議会議員のパネルディスカッションを行った。

(沖縄県議会ホームページ等から引用)

#### 【所感】

##### (自由民主党大田区民連合)

沖縄県議会では平成24年7月18日に議会改革推進会議運営要綱が策定され、現在9名の議会改革推進委員の方々が取り組んでおられます。改革の区分を監視機能の充実、開かれた議会、適切かつ効果的な議会運営等に分け、政策立案の向上や情報公開の拡充、質問方法等の見直しによる議会運営全般における効率化などの取り組みがなされていきました。

また、協議未了としては、出前議会や議会報告会の開催、通年議会の採用。また陳情者の発言権の確保や議員間討議などは、今後議論を続けていく検討課題であるとの報告がなされました。大田区議会においても議会改革に鋭意取り組んでいるところで





はありますが、デジタル化におけるペーパーレス会議や、円滑な議会運営に関する効率化など、取り組みが限定されていることが課題だと認識しております。沖縄県議会のような改革への検証は参考になり、今後も大田区議会へ積極的に取り入れていきたいと考えております。

#### (大田区議会公明党)

沖縄県議会基本条例の前文では、太平洋戦争後 27 年間に於ける米国施政権下に置かれてきた歴史を鑑み、再び戦争の惨禍が繰り返されぬよう恒久平和の実現を目指すとし、立法院からの伝統である自由闊達な議論を尊重し、県民を代表する県議会としての役割を明確にしている。

その伝統ある県議会において平成 24 年に議会改革推進会議が設置され、以降、監視機能等の充実・開かれた議会・適切かつ効果的な議会運営など多岐にわたる議論を深めてきた。今年度は、タブレットの貸与等によるペーパーレス化への対応や、子ども議会・高校生議会の開催などについて検討を進めていると伺う。この高校生議会では、通常の選挙と同様に各選挙区にある高校から選挙を行い、教育委員会より選任されるとのこと。沖縄県の歴史、県民の信頼に全力で応えるべく、この会議も含めて県議会が日々議論を深めていることを学び、大田区議会でも議会改革に向けた新たな取り組みの必要性を感じた。

#### (日本共産党大田区議団)

沖縄県議会で、議会改革の取組と前日視察に行った e - ミミ (リアルタイム文字通訳) の活用について視察しました。県議会では平成 24 年から議会改革推進会議を設置し、議会改革に取り組んできたこと、その前段で、議会改革基本条例をつくり、条例に基づき行っていること。また、基本条



例第 10 条の 2 では、陳情・請願等がだされたときは、これらを県民等による政策提案としてとらえ、必要と認めた場合は、県民の意見を聞く機会を設けるなど、誠実に処理すること等、根本となっている基本条例の必要性を感じました。沖縄県議会は、自民党 15 人だけが野党で、共産党 6 人をはじめ与党が合計 26 人、公明 4 人と維新 2 人が中立の会派構成で、民主的な議会運営がされていることに感心しました。また、e - ミミの活用では、議会の開催の違いがあるが、予算・決算議会の記録等に実際に活用している内容がよくわかりました。

(たちあがれ・維新・無印の会)

沖縄県議会で議会改革の取り組みについてうかがいました。沖縄県議会では平成24年に議会基本条例を制定し、議会改革推進会議を設置しています。議会改革推進会議のメンバーは、会派代表者や議会運営委員会メンバーとの重複もありますが、継続的な議会改革の議論が行われています。質疑のあり方や、情報公開、ICT化などについて今まで議題となっています。年に7回程度、定例会の際などに開催しており、着実に成果につながっています。大田区議会においても、同様に改革が必要な事項はあります。大田区議会においても、議会改革のための常設の会議体が必要だと感じました。沖縄県議会でのe-ミミの活用についてうかがいました。予算・決算特別委員会への各所管常任委員長報告作成のための基礎資料としています。業者選定は、県内立地企業であるためアイセック・ジャパンに発注しました。